

# 部活自死 再調査要求へ

## 県議会文厚委 学校調査は記名式

コザ高校で運動部主将の男子生徒が顧問から日常的に叱責され1月末に自殺した問題で、県議会文教厚生委員会は来週にも、県に第三者委員会の設置と再調査を求める決議案を採択する見通しであることが16日、分かった。生徒の死亡後に

学校がクラスメートや部活生らに実施したアンケートが記名式で行われたことも明らかにした。

15日の同委員会での遺族や保護者有志らの陳情内容で、アンケートが「記名式」だったことや生徒側の証言が調査報告書に記載されて

いないことなどが判明し、県教委主導の調査に対する保護者らの不信感が募っている。

県教委によると、アンケートは文部科学省の指針に沿ったが、記名かどうかの定めがなく、「早めに詳細を把握するため、学校が記名式にした」という。

陳情者の一人で、生徒と同じ部活動に所属する息子を持つ森川恭剛さんは、質問項目が具体的でないことや記名式だったことに「部員たちは、どこまで書けばいいかわからなかっただろう」と指摘する。

生徒の母親は、亡くなる前日に生徒が顧問に強く叱られる場面を複数の部員が見ていたと話す。だが部員らの証言内容が県教委の第三者チーム調査報告書に記載されず、顧問の聞き取り内容だけの記載だったことを疑問視。「当時の顧問の発言も実際に聞いた内容とは違うニュアンスだった」と再調査の必要性を訴えた。

喜友名智子氏（立憲おきなわ）や小渡良太郎氏（沖縄・自民）などと野党複数の県議が決議案に賛同しており「県議会として、玉城デニー知事に県主導での早期の再調査を求めたい」と話した。